

認知症の人や

その家族が

「自分の希望」

を地域で発信

できる場



「ここで暮らしていきたい」
その声を我がごととして考える

岡山市

の

チーム

オレンジ

東区千種小学校区

チーム名
ひまわり



「地域の清掃活動の日を忘れてしまう」

参加できるように当日声をかけようか

声をかけても出てくるのに時間がかかるようになった

準備が難しくなっているかも

本人が嫌がらなければ手伝うのは？

それならできる。準備できるまで待ってみよう

地域とのつながりだから続けることが大事

役割を「奪う」のではなく「継続」できる社会に

〇チームの成り立ち〇

認知症と診断されても、“仲の良い近所さんがそばにいる自宅で、自分のペースで暮らしたい”認知症の本人の希望がありました。

本人の“ここで暮らしていきたい”という声から、近所の人たちや家族、ケアマネジャー等の専門職と「個人でできること」「地域で取り組むこと」を話し合いました。

チームひまわりでは、チームオレンジの取組を通じて、何か特別なことをするのではなく、本人と関わる住民が本人の声や思いを尊重しながら今までと変わらない関わりを続けていきます。

本人の声を聴くこと、認知症を正しく理解すること、できる範囲のちょっとした手助けを続けること等、近隣のサポーターと本人に関わる専門職とが地域での暮らしを共に考えていきます。

岡山市の誰もが 自分の希望を叶える地域へ

チームオレンジとは

認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続ける上での色々なバリアを減らしていく取り組みをすすめ、地域・企業・医療・福祉を含めた関係者と協力者のもと、「認知症の人がどう暮らしていきたいか」の「声」を聴いた地域づくりの活動です。

ひとりの認知症の人の声から
チームオレンジは始まる

『馴染みの友人と過ごすのは好き』
『今まで通りここで生活したい』

認知症の人のニーズ

今後もフォローや手助けはしていきたいが…心配なこともある

どこまで地域で手助けをすればいいかわからない

近所の人たち
(認知症サポーター)

『近所にはいい人が多い』
『大勢の人がいる場所は苦手』
『みんなで過ごすより仲のいい人と話をする時間が好き』
『私が忘れてしまうから面倒に思われているかも』
『怒る人は苦手…』

認知症の人

〇〇さん(認知症の人)がよくうちの犬の面倒をみてくれて助かった

近所の人たち

できることがあればしたい。
お互い様だから

訪問を重ねる中でわかってきたことがある！

地域包括の職員(推進員、地区担当、コーディネーター)

認知症の人や近隣のサポーターを訪ね、それぞれの思いを聴くことを繰り返す

近所の人からステップアップ講座の中で出てきた言葉

「町内の掃除に誘ったり、一緒にご飯に行ったり今までと変わらない関りを続けよう」

本人の声を大切にし、ゆるやかなつながりが続くことで認知症になっても誰もが住みやすい地域へと変わっていく。

ステップアップ講座

家族、ケアマネジャー等の支援者、近所の人たち

本人と関係を作る中で把握した思いを共有する。認知症と共に地域で暮らすために、周りの人ができることを話し合い、個人だけではなく、地域全体で取り組むことが見えてきた。

認知症サポーターになりませんか？

認知症のことを正しく理解し、認知症の人やその家族を見守る応援者・理解者です。
認知症サポーター養成講座(無料)を修了いただいた方にサポーターとなっていていただきます。講座は定期的実施しています。興味のある方は、(公財)岡山市ふれあい公社地域包括支援課(086-274-5136)へお問合せ下さい。

